

外務省

- 第十節 西安事件
- 一、事件ノ概要
- 二、南京政府ノ應急措置
- (一) 行政、軍事ノ負責者及學良懲罰ノ決定
- (二) 南京政府ノ明令（一般國民ニ對ス）
- (三) 孔祥熙ノ通電（各將士ニ對ス）
- (四) 我方ニ對スル通知
- 三、反響
- (一) 一般ニ對スル反響
- (二) 地方軍閥ノ動向
- イ、廣東派
- ロ、廣西派
- ハ、閩錫山
- ニ、劉湘

11. 11

5

161528

0290

外務省

西安事件

一二、一、九
東亞一課

11. 11

5

161528

0289

張
資料

ホ、宋哲元、韓復榘

四、事件ノ原因

(一) 學良ノ^{介石}蔣ニ對スル不滿

(二) 政策上ノ理由、共產黨軍乃至蘇聯トノ提携

五、帝國政府ノ方針

(一) 出先官意ニ對スル訓令

(二) 有田大臣、許大使會談

(三) 聲明書ノ發表

六、南京政府ノ^派學良討伐方針

七、南京側ノ妥協工作

(一) 「ドナルド」ノ西安行

(二) 蔣鼎文ノ歸京

(三) 宋子文ノ活動

八、學良安全出國ニ關スル英國側申出

外務省

11. 11



161528

0291

(一) 提議ノ経緯

(二) 堀内次官、英國大使會談

(三) 有田大臣ノ英大使ニ對スル回答

(四) 英、米、佛、伊大使ノ南京政府ニ對スル申入

(五) 須磨總領事、高宗武會談

(六) 英國側提案ノ理由

九、蔣介石ノ歸還

(一) 蔣介石ノ歸還、妥協條件

(二) 學良ノ^派蔣釋放理由

(三) 中央側ノ妥協理由

(四) 蔣介石ノ張、楊ニ對スル訓話

(五) 蔣介石ノ「ステートメント」發表

(六) 蔣介石ノ海外同胞ニ對スル通電

(七) 一般輿論

外務省

11. 11



161528

0292

REEL No. A-0871

0211

アジア歴史資料センター

- 七、南京政府ノ善後措置
- (一) 蔣介石ノ進退
 - (二) 張學良ノ歸順
 - (三) 整理陝甘軍事辦法
- 十、南京政府今後ノ動向
- (一) 二種ノ觀測
 - (二) 中央政府ノ説明
 - (三) 結論

外務省

11. 11

S

161528 0293

二、事件ノ概要

昭和十一年十二月十二日午前三時張學良ハ抗日容共ノ實行ニ關スル要求ノ容レラレサルヲ理由トシ突如其ノ部下白鳳翔ヲシテ華清池（西安ノ東北約六十支里）ニ在ル蔣介石ノ宿舍ヲ襲ハシメ蔣以下陳誠、蔣鼎文、邵力子、朱紹良、錢大鈞等ノ要人ヲ逮捕シ之ヲ西安ニ監禁セリ

學良ハ右決行ト同時ニ陝西綏靖公署主任楊虎城等トノ連名ヲ以テ南京政府ニ對シ通電ヲ發シ八箇條ヨリナル要求ヲナセリ

右通電ハ冒頭ニ於テ南京政府ノ稅政ヲ攻擊シ對日外交ノ失敗ヲ揭ケ蔣ニ對シ最後ノ忠告ヲナストテ(1)抗日ノ即時實行(2)聯蘇容共(3)中央政府ノ改組(4)共產軍討伐ノ中止(5)政治犯人（共產黨員）ノ釋放(6)愛國運動ノ自由恢復(7)言論結社集會ノ自由(8)孫總理ノ政策ノ實行等ヲ要求セルモノノ如シ

十二月上旬張學良ハ蔣介石ニ對シ部下將領ノ統帥困難ヲ懇ヘ蔣ノ

11. 11

S

161528 0294

外務省

訓授ヲ請ヒタルカ蔣ハ請ニ應シ洛陽ヨリ臨潼ニ至ラントシ途中華清池ニ於テ逮捕セルモノナリ遭難地ニハ學良ノ軍隊二個師アリタルモ蔣介石ノ衛兵ハ極少ナリシ爲殆ト抵抗ヲナサステ逮捕セラレ邵元冲、錢大鈞外四十名餘ノ將校死傷セリ學良ハ右決行ト共ニ隴海線（臨潼ヨリ潼關ニ至ル）ノ橋梁ヲ破壞シテ中央ニ備ヘ一方十三日宋子文宛蔣介石ノ生命ヲ保障スル旨電報セリ

ニ南京政府ノ應急措置

(一) 行政軍事ノ負責者及學良懲罰ノ決定

南京政府ハ右凶變ノ報告ニ接スルヤ十二日午前十一時半ヨリ中央常務委員會ヲ開催シ左記ノ決議ヲナシ夫々行政院並ニ軍事委員會ノ責任者ヲ定メ應急ノ措置ヲ執ルト共ニ學良ノ懲罰ヲ決議セリ

イ、行政院ハ副院長孔祥熙ニ於テ責ヲ負フ

ロ、軍事委員會ハ常務委員ヲ五人ヨリ七人ニ増加シ何應欽、程

外務省

S

161528

0295

潛、李烈鈞、朱培德、唐生智、陳紹寬、白崇禧ヲ常務委員ニ追加ス

ハ、軍事委員會ハ副委員長馮玉祥及常務委員ニ於テ責ヲ負フ

ニ、軍隊ノ指揮ハ軍事委員會常務委員軍政部長何應欽ニ於テ責ヲ負フ

ホ、張學良ノ本兼職ヲ撤奪シ軍事委員會ノ査問ニ付シ其ノ軍隊ハ軍事委員會ニ直屬セシム

(二) 南京政府ノ明令

國民政府ハ十三日附ヲ以テ「政府ハ適當ノ措置ニ出ツヘク各機關一切ノ政務ハ既定方針ニ基キ平常通り進行スヘシ國民ハ諒解ニ惑ハサルルコトナク樂ニ安ンセヨ唯不遇ノ徒機ニ乘センコトヲ惧ルルカ故ニ軍事委員會ヲシテ必要ノ地域ニ戒嚴ヲ宣布セシム云々」ト述ヘ各地方市民ニ對シ治安ノ維持並ニ輕舉妄動ノ阻止ヲ訓令セリ

外務省

S

161528

0296

(三) 孔祥熙ノ通電

孔祥熙ハ十三日全國各將士宛左ノ通電ヲ發シ蔣介石ノ既定方針ノ不變更ヲ宣明セリ

「中央黨人ハ公敵ニ對シテハ固ヨリ決心アリ救國ノ策トシテハ主權及領土ノ完成ニ努力セサルヘカラス而シテ此ノ目的達成ノ爲ニハ國內ノ完全ナル統一ヲ要ス蔣院長ハ此ノ目的ニ向テ邁進シ功績顯著ナルモノアリ然ルニ意外ニモ變遷ノ決戰ヲ齎ユシテ國家存亡ノ懸ル時ニ當リ西安ノ凶變ヲ見ル支那ノ前途ニ關係スル處大ナリ但シ大義ヲ明ユシ愛國心ニ長スル我カ國民ハ一致中央及ヒ既定方針ヲ擁護シテ國家ノ統一ヲ完成シ地方長官又中央ニ忠誠ヲ致シ中央ト一致ノ行動ヲナスヘキヲ確信ス此ノ危機ニ際シ孔祥熙及中央黨人ハ政務一切ヲ平常通り遂行シ蔣院長ノ既定方針ニ從ヒ國家ト共ニ上下一致最大ノ努力ヲ以テ國家ノ安全ヲ策セントス」

外務省

S

161528 0297

(四) 我方ニ對スル通知

十三日朝高宗武ハ須磨南京總領事ニ對シ右事件突發ノ報ニ接シタルニ付不取敢中央常務委員會ハ前報ノ如キ五箇ノ決議ヲナセル旨内報越セリ

三、反響

(一) 一般ニ對スル反響

今次「クーデター」ノ發生ハ支那各方面ニ絶大ナル衝動ヲ與ヘタルカ各紙ハ學良ノ行爲ハ國家ノ統一ヲ害シ救亡禦侮ノ遂行ヲ阻害スルモノナリトテ盛ニ學良ヲ非難攻撃シ中央擁護ヲ主張シタルカ一般民衆モ學良ノ違口ニ多大ノ反感ヲ持チタルモノノ如ク一部急進學生、救國會一派及少數共產分子ノ暗躍等アリタル外全支ヲ通シテ學良討伐、中央擁護ノ氣運漲リ各地方ニ於ケル黨部其ノ他教育、商界、言論界ニ於ケル各種團體及省主席、綏靖主任將領等ハ舉ツテ中央擁護乃至學良討伐ノ通電ヲ發シタル

外務省

S

161528 0298

カ其ノ主ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ
イ、馮玉祥ノ學良宛電報

馮玉祥ハ十三日學良宛「國難非常時ニ當リ内争ヲ事トスヘキ
ニ非ス蔣介石ヲ即時釋放歸京セシメ然ル後要求ヲ提出セヨ之
ニ付玉祥自ラ盆責任ヲ負フヘシ」トノ趣旨ノ電報ヲ發シタリ
ロ、全國將領通電

胡宗南、黃杰等百七十餘名ノ全國將領ハ十三日中央ニ對シ即
日學良討伐命令ノ發出アリ度キ趣旨ノ請願電ヲ發シタルカ右
ニ關シ何應欽ハ命ヲ俟ツヘキ旨開陳セリ

ハ、上海總工會及百餘ノ各種總工會ヲ始メ各地方ノ商工團體、
黨部等ハ夫々中央擁護ノ通電ヲ發セリ

ニ、馬鴻逵、曹福林等各師長二十八名ハ中央ニ學良討伐令發出
方電請セリ

ホ、全國新聞界二百五十一社ハ時局共同宣言ヲ發シ中央擁護、

外 務 省

11. 11

S

161528

0299

(二) 地方軍閥ノ動向

イ、廣東派

蔣介石安全救出、學良討伐ヲ速ヘタリ

(イ) 余漢謀等ハ十三日事變發生ノ報ニ接シ不取敢國民政府ニ對
シ中央擁護ノ通電ヲ發シタルカ同日何應欽ニ對シ學良ノ迅
速ナル討伐ヲ電請スル所アリタリ

(ロ) 然ルニ余漢謀ハ十五日孫科及孔祥熙ニ宛「西南ハ親日ニ反
對ナルモ宋哲元、韓復榘ハ聯露ニ反對ナルヲ以テ此ノ際敢
テ主張ヲナササルモ學良ニ對シテハ手段ヲ緩和シ別ノ方法
ヲ考究セラレ度シ」ト電報シ更ニ十七日何應欽、孔祥熙ヨ
リ意見ヲ求メラレタルニ對シ「目下ノ閩錫山及學良ノ主張
ニ對シテハ中央ニ於テモ充分考慮ノ上徐々ニ政治的解決ヲ
ナス要アルヘシ萬一兵火ヲ以テ見エシカ國力ヲ消耗シ野心
家ニ侵略ノ口實ヲ與フヘシ」ト四電シ學良討伐ニ反對ノ意

外 務 省

11. 11

S

161528

0300

衛ヲ表明セリ

之ニ對シ何應欽ハ二十三日日本ノ策動ヲ否定シ強硬ナル言辭ヲ以テ討伐ノ必要アリト力説シタル趣ナリ

(イ) 右ノ如ク廣東派ハ中央擁護通電ヲ發スル一方何應欽ノ學良討伐主張ニ對シ反對ノ意圖ヲ示シ將、張汝方ニ對シ不離不即ノ態度ニ出テントシタルモノノ如シ

ロ、廣西派

今次事變發生ト共ニ李宗仁、白崇禧等ノ廣西派ノ動向ニ付テ各方面多大ノ注意ヲ惹キタルカ

(イ) 十三日何應欽ヨリ蔣連難ノ報アリタルニ對シ李宗仁ハ「蔣介石ノ遭難ハ驚愕ニ絶ヘス地方ノ防備及大局ノ維持ニ盡力スヘシ」トノ趣旨ヲ回電セリ

右電報ハ學良ノ處分及其ノ通電ノ内容ニ關シテハ何等言及スル所ナク他ノ各省市當局ノ意思表示ト異ナル所アリテ學

外務省

161528 0301

良トノ策應ヲ思ヘシメタリ

(ロ) 然ルニ二十四日余漢謀其ノ他隣省主腦者ニ對シ雲南、湖南、廣東、廣西及四川ノ五省聯防ヲ主張シ右ニ對シ何健、劉湘、龍雲等ハ夫々余漢謀ニ反對電報ヲ寄セタリト傳ヘラレタリ

(イ) 其ノ後廣東側ヨリ時局對策ニ關スル意見ノ提出アリタルニ對シ李、白等ハ二十日附ヲ以テ余漢謀ニ密電シ「事今日ニ至ラハ中央從來ノ國策ハ當然改變セラルヘキナリ廣西ハ決シテ日本人ノ立入りヲ許ササルニ付廣西カ日本ト連結スル等ノ詭言ニハ耳ヲ藉スコト勿レ」ト申越シ又李濟琛モ二十一日附電報ヲ以テ余漢謀ニ對シ「共產黨ニ我國ヲ與フルハ日本人ニ之ヲ與フルニ勝ル學良ハ決シテ蔣ヲ釋放スルコトナカルヘク南京政府力此ノ際抗日セス且日本ノ意ニ從ハハ必ス後悔スヘキニ付對日態度ヲ速ニ表示セラレ度シ」ト申越シタル趣ナリ

外務省

161528 0302

(二) 李、白ハ更ニ二十四日余漢謀ニ對シ「西安事件ハ學良等カ
蔣介石ニ對シ殺東戰ノ勝利ニ乘シテ察哈爾、熱河ノ進攻方
ヲ要求セルモ蔣ノ拒絕ニ遭ヒタル爲ニ起レルモノニシテ蔣
院長ヲ救出セント欲セハ廣東、廣西ヨリモ察、熱方面ニ出
兵シ事實ヲ以テ國策ノ變改ヲ證明スル外ナク右ニ就キ劉湘
何健モ既ニ贊同シ居ルヲ以テ廣東側ハ大体軍需品ノ供給ヲ
引受ケ通電ニ署名センコトヲ斷フ」旨申越シタリト傳ヘラ
レタリ

右ノ如ク廣西派ハ瀕リニ陰謀ヲ企ミタルカ如ク事件ノ解決
ヲ遲延スルニ於テハ他省ニモ變亂勃發スルカ如キ形勢ヲ馴
致セリ

ハ、閩錫山

(イ) 學良ハ通電ノ反響意外ニ不利ニシテ全國ノ形勢極メテ非ナ
ルモノアリタル爲遲延兩難ニ陥リ最近相當密接ナル關係ニ

外 務 省

S

161528 0303

在リシ閩錫山ニ頼ラントスルニ至リタルカ如ク十七日秘書
長李金洲ヲ太原ニ派シ閩錫山ニ對シ(1)閩カ蔣介石ノ安全ヲ
保障スルコト(2)學良カ南京ニ蔣介石ト同行シ國民ノ審判ヲ
俟ツヘキコト(3)閩カ西安ニ使者ヲ派シ蔣ノ優遇セラレ居ル
コトヲ認證セラレ度キコト等ヲ申出テタル由ナルカ右ニ對
シ閩ハ單獨面會可能ナラハ代表者ヲ派遣スヘシト答ヘ十八
日學良ヨリ右ニ應諾ノ返電アリ閩ハ中央トモ諒解ヲ得テ十
九日趙載文、徐永昌等ヲ西安ニ赴カシメタリ

(ロ) 一方南京側モ學良、閩ノ關係ニ顧ミ閩ヲシテ蔣ノ救出ニ當
ラシメントセシカ如ク十八日代表ヲ太原ニ派遣スル旨電報
セリ

(ハ) 十四日閩ハ余漢謀ニ對シ學良ノ要求ヲ容レ局面ヲ轉換セシ
ムル必要アル旨電報シタル趣傳ヘラレタルカ右ハ張、閩間
ニ相當ノ連絡アリタル爲ナリト觀ラレタリ

外 務 省

S

161528 0304

右ノ如ク聞ヘ一方中央擁護ヲ標榜シ乍ラ他方一般大勢ノ主張ナル學良膺懲ニ關シテハ武力解決ヲ好マサルカ如キ態度ヲ示シ西安南京間ニ立チ調停ニ乘リ出ス意圖ヲ有スルヤニ見エタリ(但シ後顧ノ蔭、張妥協成立ニ付テハ關ハ何等關係スル所ナキカ如シ)

ニ、劉湘

今次事變ノ發生ニ際シ四川ノ劉湘ハ獨立通電ヲ發セリトノ風評事ヲナリシモ劉ハ十五日中央ニ對シ第一次、十八日第二次通電ヲ發シ中央擁護ノ意思ヲ表明スル一方學良ニ對シ政治的解決、蔣介石ノ即時解放及學良ノ政治上ノ主張ハ劉力中間ニ立チ解決セシムヘキコト等ヲ電報シ來リタル次第アリ別腹反中央ノ氣配ヲ示シ居ラサリシカ如シ

ホ、宋哲元

(イ) 十三日張、楊連名ヲ以テ宋哲元ニ來電アリ蔣介石監禁ノ理

外務省

S

161528 0305

由ヲ述ヘ西安ニ代表ヲ派遣シ學良等ト敎國ノ方策ヲ議スル機電報越シタル處宋ハ之ニ對シ容共ニ反對シ蔣ヲ安全ニ釋放スヘシト返電セル趣ナリ

(ロ) 他方十七日何應欽ヨリハ張學良叛亂ノ事實ヲ報告シ各地相呼應シテ張ヲ討伐スヘキ趣旨ノ來電アリタルカ右ニ對シ宋ハ容共ニ反對シ兵ヲ率ヒテ中央ノ命ヲ俟ツヘキ旨回電スル所アリタリ

ヘ、韓復榘

(イ) 韓復榘ハ十三日各師長及警備司令等ヲ召集シ對策ヲ協議シタルカ同日治安維持及保境安民ニ關スル布告ヲ發セリ次々テ翌十四日韓以下各師長連名ヲ以テ林森、何應欽等ニ宛中央擁護ノ通電ヲ發シタリ

(ロ) 二十三日韓ハ宋トノ連名ヲ以テ「中央及地方軍政各主要機關等ニ對シ張學良ノ武力討伐ハ支那ノ内戰ナルヲ以テ絶對

外務省

S

161528 0306

反對ナリ西安事件ハ政治的妥協工作ニ依リ解決スヘキ」趣旨ノ通電ヲ發シタリ
右通電ノ發出ハ韓復榘カ首唱シ宋カ之ニ從ヒタル趣ナル處右ニ付韓ハ我出先官意ニ對シ武力解決ニ伴フ困難及損失並ニ其ノ後ニ於ケル事態ノ收拾ノ困難ヲ憂慮シ政治的解決ヲ主張セルモノナリト述ヘ居ルモ真相ハ蔣ノ救出並ニ當面ノ時局收拾又ハ中央ノ措置ニ反對スル意圖ニ出テタルニ非スシテ實ハ之ニ名ヲ藉リ自己ニ有利ナル政治的活動ヲ目標トシタルモノニ非スヤト察セラル
右通電ハ南京政府内討伐派ノ氣勢ヲ削キ宋子文等妥協派ノ暗躍ニ拍車ヲ懸クルニ至レルモノノ如シ（本節九ノ南京側ノ妥協理由参照）

外務省

161528 0307

事件ノ原因

(一) 學良ノ蔣ニ對スル不滿

學良ハ先ニ滿洲ヲ失ヒ次テ華北ヲ追ハレ更ニ不毛ノ陝西ニ移駐後ハ中央ヨリノ軍費ノ支給モ甚タ不充分ナルノミナラス事毎ニ蔣介右ノ壓迫ヲ受ケ昨年夏西南問題發生當時學良ハ西南側ニ策應セント計畫シタルカ如キモ其ノ機會ヲ逸シタル模様ナル處綏遠問題發生後西安ニ於テ蔣介石ニ對シ抗日容共政策ノ必要ヲ力説シタルカ蔣ノ一蹴ニ逢ヒ却テ剿匪軍事ノ進捗セサルコトヲ指摘セラレ期限附ニテ共產軍ノ肅清ヲ嚴命セラレタリ爾來學良及其ノ部下將領殊ニ赤化分子（所謂新派）ハ益々不滿ヲ抱キ反蔣ノ空氣漸次濃厚トナリタル際蔣ハ學良軍ノ共匪討伐ノ成績舉ガラザルニ業ヲ煮ヤシ同軍ヲ改編シ中央軍ノ配下ニ置カントシ十二日ノ發表ヲ以テ蔣介石直系ノ蔣鼎文ヲ西北剿匪前敵總司令ニ、衛立煌ヲ西北總指揮ニ任命シテ東北軍ヲ福建省ニ移駐セシムルコトナリ張學良ヲ無視

外務省

161528 0308

スルノ意圖愈々明ニナリタルヲ以テ學良ハ遂ニ非常手段ヲ斷行セ
ルモノニシテ蔣ヲ人質トシ中央ニ對シ其ノ主張ヲ貫徹セントセル
モノト觀察セラル

(二) 政策上ノ理由、共產黨軍乃至蘇聯トノ提携

學良ハ抗日容共ノ實行ニ關スル要求ノ容レサレサルヲ蔣監禁ノ理
由トナシ居リ事實昨年十月蔣カ杭州ヨリ西安ニ飛ヒタル際蔣ニ對
シ右方針ノ實行方ヲ迫リ又西安問題發生後西安ニ於テ同政策ノ必
要ヲ力説シタル點ヨリ見テ今次兵變ノ背後ニ共產黨從テ蘇聯等ノ
觸手動キ居ルヘシトノ觀測有力ナリ(尤モ之ヲ的確ニ裏書スルモ
ノナシ)學良ノ共產黨軍乃至蘇聯トノ連絡ヲ推知セシムル材料ヲ
舉クレハ左ノ如シ
イ、學良ノ職責カ共產黨軍ノ討伐ニアルニ拘ラス過去數箇月間全
然剿匪ヲ實行シ居ラス又何レヨリカ金品ヲ得居ルカ如キ形跡アリ

外務省

11. 11

161528

0309

ロ、(1) 昨年頃ヨリ竊カニ蘇聯ト連絡シ居ルコト(2) 屢々中央ニ對シ

抗日聯露ヲ主張シ來リタルコト(3) 新疆ノ盛世オトノ間ニ或ル種
ノ諒解存シ居ルコト(4) 共產黨トノ間ニ妥協成立セルコト等ノ情
報傳ハリタリ

ハ、更ニ兵變前後共產黨側ヨリハ

(1) 十一月末學良軍ハ共產黨トノ間ニ軍事協定ヲ締結セリ(2) 西安
ニ於テハ兵變前日ノ十一日共產黨員指導ノ下ニ約七千ノ民衆抗
日聯露、容共ノ「スローガン」ヲ掲ケ大「デモ」ヲ行ヒタリ(3)
事變直後「ソヴィエト」區域ヨリ周恩來、朱德等ヲ始メ共產黨
領袖多數西安方面ニ集リ而シテ周恩來ハ三度蔣介石ト會見セリ
(4) 寧夏、陝西、甘肅、省境ニアリタル共產黨ハ兵變後南下ヲ開
始セリ(5) 十七日全國各界救國聯合會ハ上海ニ於テ會議ヲ開キ學
良ノ主張スル所ハ民衆ノ聲ナリトシ學良ノ支持ヲ決議セリ等種
々ノ情報傳ヘラレタリ

外務省

11. 11

S

161528

0310

右ニ依リ今次ノ兵變カ蘇聯ノ直接ノ示唆ニ係ルモノニ非ストス
ルモ蘇聯トノ間ニ何等カノ連絡アリタルモノト推定スルヲ得ヘ
シ之ヲ要スルニ學良ノ叛亂ハ舊東北軍ノ待遇問題ニ關聯スル不
滿カ其ノ抗日容共ノ主張ト獨ミ舊東北軍移駐命令ヲ機會ニ勃發
セリト見ルカ妥當ナルヘシ

帝國政府ノ方針

(一) 出先官憲ニ對スル訓令

帝國政府ニ於テハ事件發生スルヤ出先官憲ニ對シ「政府トシテ
ハ差當リ在支居留民ノ保護並ニ權益ノ擁護ニ専念スルト共ニ適
確ナル情報ノ把握ニ努メ真相ノ判明スルヲ俟テ方策ヲ決定ス
ルコトトセリ尤モ東亞ニ於ケル赤化勢力ノ進出防止ハ我カ國策
ノ根幹ヲナスヲ以テ南京政府ハ勿論地方政權ニシテ容共聯露ヲ
標榜スルカ如キコトアラハ帝國トシテモ之ヲ默過シ得サル所ナ
リ仍テ是カ監視乃至指導ニ付テハ出先官憲ニ於テモ萬遺漏ナカ

外務省

11. 11

S

161528

0311

ラシムルト共ニ問題ノ急速解決ヲ圖ラントスルカ如キハ却テ帝
國ノ立場ヲ不利ナラシムル虞アルニ付此點ニ關シテハ十分ノ注
意ヲ以テ對處スルヘキ旨訓電セリ

(二) 有田大臣、許大使會談

十七日許大使有田大臣ヲ來訪シ國民政府ノ訓電ニ依ル次第ニハ
非ルモ今次西安事件ニ對シテハ日本ハ上下共多大ノ關心ヲ有ス
ルコトト存スルニ付本使ノ知ル限りノ情報ヲ傳フヘシト前提シ
タル後大要左ノ如キ會談ヲナセリ

イ、西安事件ノ發生ニ對シ國民政府ハ極メテ冷靜ナル態度ヲ持
シ居ル處例ヘハ劉峙以下三十七名、胡宗南以下二百三十六名
連名ノ通電等各省主席、綏靖主任將領等ニシテ中央擁護乃至
ハ學良討伐ノ意圖ヲ表明セル者極メテ多キノミナラス各地ノ
商會、學校、言論機關等何レモ學良反對ヲ聲明シ居レリ
ロ、各省市ノ人心ハ依然平穩ナルノミナラス上海等ノ金融狀態

外務省

11. 11

S

161528

0312

モ殆ト從來ト變化ナク又外交方針ニ關シテハ未タ政府ノ訓電
ハナキモ南京ノ「ラデオ」ハ外交方針不變更ヲ決議セルコト
中央政治會議ニ於テ何應欽ヲ討逆總司令ニ任命セルコト等ヲ
放送シ居レリ尙昨十六日深更接到セル外交部來電ニ依レハ「
ドナルド」ハ西安ニ於テ蔣院長ニ面會シタルカ蔣ハ健在ナル
趣ナリ

ハ、貴大臣ハ新聞記者ニ對シ日本政府トシテハ事態ヲ靜觀スル
旨竝ニ今次事件ニ對シテハ飽迄公正ナル態度ヲ持ストノ意見
ヲ發表セラレタル趣ニテ右ハ支那ノ新聞ニモ傳ハリ支那輿論
ハ何レモ之ニ贊意ヲ表シ居ル處右御趣旨ヲ貫徹セラルルニ於
テハ日支國交ノ改善ニ寄與スル處極メテ大ナルヘシ
蔣院長ノ御健在ナルヲ聽クハ極メテ欣快トスル處ニシテ今次
事件ハ日本ニ取り影響スル處甚タ大ナルヲ以テ日本政府ニ於
テハ重大關心ヲ以テ事態ノ推移ヲ注意シ居ル譯ナルカ新聞報

外務省

S 161528 0313

道ニ依レハ張學良ハ蔣院長ニ對シ對日即時開戦、容共聯露等
ヲ主張シ右カ容レラレサリシ爲今四ノ舉トナリタル趣ノ處是
カ事實ナリトセハ今次ノ事件ハ國民政府ニ取り一大教訓ヲ與
ヘタルモノト云フヘシ國民政府ノ内外ニハ容共聯露ヲ主張ス
ル者極メテ多キニ付此ノ際一大決心ヲ以テ是カ肅清ヲ圖ルノ
要アルヘシトノコトハ豫テ屢々御語シタル所ナルカ今四ノ事
件ニ依リ政府部内ニ容共抗日ノ有力ナル分子ノ存在スル事實
カ一層明トナレル次第ナリ)東亞ノ平和及帝國ノ安全ノ爲隣
邦ノ赤化ハ日本ノ關心措ク能ハサル處ニシテ容共聯露ヲ主張
スル者ニ對シテハ中央政府權タル場合ハ勿論地方政權タル場合
ト雖モ日本トシテハ是カ速ニ壊滅センコトヲ希望スル次第ナ
リ

(三) 聲明書ノ發表

トノ趣旨ヲ述ヘタリ

外務省

S 161528 0314

帝國ノ方針ニ關シ十八日外務省ヨリ非公式ニ左ノ趣旨ノ聲明ヲ發表シタリ
今次西安事件ニ關シテハ真相未タ判明セサルヲ以テ日本政府トシテハ暫ク事態ヲ靜觀セントスルモノナルカ本事件ノ歸趨如何ハ日本ニトリ影響スル所極メテ大ナルヲ以テ帝國政府ハ重大關心ヲ以テ之カ推移ヲ注視シ居レリ新聞報道ニ依レハ張學良ハ容共抗日ヲ標榜シ居ル趣ナルカ隣邦ノ赤化ハ帝國ノ安全延テハ東亞ノ平和ニ多大ノ危險ヲ與フルモノナルニ付右報道ニシテ事實ナリトセハ帝國政府トシテハ支那側力之ニ對シ嚴重適切ナル措置ヲ講スヘキコトヲ期待スル次第ナリ
六 南京政府ノ學良討伐方針
イ、前顯ノ如ク十三日中央常務委員會ニ於テ學良ノ懲罰ヲ決議シタルガ十六日ノ中央政治會議ハ張學良討逆明令ヲ發出シ愈々學良ノ討伐ヲ決議シ何應欽ヲ討伐總司令、劉峙ヲ前敵總司令ニ夫

外務省

11. 11

161528

0315

夫任命シ二十日附ヲ以テ右討逆明令ヲ發シタリ
ロ、右措置ニ依リ蔣ノ生命ハ自然危險トナリタルモ中央ハ軍政各部ヨリノ討張請願アリ一方四川、廣西方面ノ形勢逼迫シ遲延ヲ許ササル狀勢ニ立至リタルヲ以テ蔣ノ身邊ヲ顧慮スル遽ナク遂ニ右討伐令ヲ發出スルニ至リタルモノノ如シ
ハ、中央黨部内ニ於ケル蔣介石派ハ討伐、妥協ノ兩派ニ分レ何應欽、張群、戴天仇、居正等ハ前者ニ屬シ孔祥熙、宋子文、宋美齡等ハ後者ニ屬セシガ十二日ノ聯席會議ノ結果討張令發出說有力トナリタル處陳果夫兄弟ハ何應欽ト聯絡シ十六日ノ中政會ニ於テ孔祥熙一派ヲ押ヘ遂ニ討伐令ヲ發出スルニ至リタルカ如シ
ニ、十八日頃ニ至リ中央ノ軍隊ハ華陰地方ニ續々集中シツツ西安包圍ノ姿勢ニ出テ其ノ後中央軍ハ蔣鼎文ノ持參セル蔣介石書翰ノ次第モアリ十九日午後六時迄一時攻撃停止ヲ電令セルモ依然蔣ノ歸還ナキヲ以テ益々強硬ナル態度ヲ採リ潼關ヨリ入陝シテ

外務省

11. 11

161528

0316

赤水ヲ占領シ更ニ渭南方面ニ於テハ衝突ヲ免レサルカ如キ氣勢ヲ示シタリ
ホ、一方陝西北部、甘肅方面ニ在リシ東北軍ハ逐次南下シ西安方面ニ集結セリト傳ヘラレタリ
ヘ、廿三日中央政治委員會ニ於テハ林森ヨリ叛逆處置案ヲ再提出ノ上討逆總司令何應欽ヲシテ切實之ヲ遵奉セシメ急速ニ平定セシコトヲ提議シ滿場一致賛成セリ右ハ宋子文等妥協派ノ運動ニ牽制セラレ軍事行動ヲ迅速ニ進展セス事態長引ケバ中央ノ威信ヲ害シ學良ノ地位ヲ強カラシムル惧アリタルヲ以テ行ハレタル趣ナリ
ト、尙十六日ノ中政會ハ于右任ヲ西北軍民憲慰使ニ推薦シ楊虎城部下ノ切崩シ工作ニ當ラシムルコトトシ于ハ十七日秘書長王陸一ヲ從ヘ南京發達關ニ赴ケリ
セ南京側妥協工作

外務省

11.11

S

161528

0317

(一)「ドナルド」ノ西安行

曩ニ學良ノ顧問ニシテ最近ハ蔣介石ノ秘書タル「ドナルド」ハ學良ニ對シ蔣、張妥協斡旋ノ目的ヲ以テ西安行ヲ通シタル處承諾シ來リタルヲ以テ十四日「ド」ハ西安ニ飛來セリ「ド」ノ西安行ハ英國大使ガ宋子文等ト相談ノ上勸說セルニ依ルモノノ如シ「ド」ハ蔣ノ生存ヲ見届ケ十五日洛陽ニ飛來シ同地ヨリ南京ニ蔣ノ生存中ナルヲ報告セリ

(二)蔣鼎文ノ歸京

學良ハ中央ノ態度強硬ナルノミナラズ通電ノ反響意外ニ不利ニシテ全國ノ形勢極メテ非ナルヲ知り妥協ヲ策セントセシモノノ如ク監禁中ノ蔣鼎文ニ蔣介石ノ書翰ヲ持參歸寧セシメタリ蔣鼎文ハ十八日正午西安ヨリ洛陽ニ飛來シ同地ヨリ南京ニ電話ヲ以テ蔣介石ノ無事生存ヲ報告セリ之ニ依リ蔣ノ生存ノ事實全ク判明スルニ至レリ

外務省

11.11

S

161528

0318

蔣ノ書簡（何應欽宛）ハ「十九日迄ニハ歸京シ得ベキ見込ナルニ付西安攻撃ヲ中止スベシ」トノ趣旨ナリシガ之ニ對シ中央政府ハ蔣鼎文ヲシテ學良ニ對シ「十九日午後六時迄ニ蔣介石ヲ南送セバ軍事行動ヲ停止セシムルモ可ナル」旨電報セシメタル趣ナリ

（三）宋子文ノ活動

十九日ニ至ルモ蔣介石ノ歸還ナカリシヲ以テ南京政府ハ既定方針ニ依リ學良討伐ヲ進メタルカ一方軍事の解決反對派ノ策動アリ宋子文ハ二十日政府ノ命ニ依ラス全ク個人ノ資格ナル建前ニ於テ西安ニ飛來シ二十一日一旦歸寧シタル後翌二十二日宋美齡「ドナルド」、蔣鼎文等ヲ伴ヒ再ヒ西安ニ飛行セルカ二十四日妥協成立セリト傳ヘラレ蔣鼎文ハ一行ニ先ンジ二十四日歸寧セリ。

ハ學良安全出國ニ關スル英國側申出

外務省

S

161528 0319

（一）提議ノ経緯

英國ハ事件發生後中央政府ノ衰弱スルヲ惧レ極力之ヲ支持セントシ先ツ支那銀行ニ對スル「モーラル、サポート」ニヨリ財界安定ヲ援助スヘキ態度ヲ明示シタルガ次デ「ドナルド」ニ西安行ヲ勸メ蔣介石ノ生存ヲ確ムルヤ在支英國大使ハ列國側ノ學良ノ安全出國保障ヲ中央政府ニ對シ申入ルヘキコトヲ提議セリ

（二）堀内次官、英大使會談

十九日英國大使「クライブ」ハ堀内次官ヲ來訪シ口頭ヲ以テ右提議ヲ申入レタルガ左記ハ其ノ折同大使カ會談ノ參考トシテ持參セルモノナリ

外務省

S

161528 0320

It has occurred to my Government that Chang Hsueh-liang might be persuaded to release Chiang Kai-shek if assured of his own personal safety. It might be possible for him to be removed by air to Tientsin or Shanghai where his safety could probably be guaranteed and whence he could leave the country.

Sir H. Knatchbull-Hugessen spoke to Dr. Kung who welcomed the proposal. It was explained to him that consultation with other Powers could be necessary.

I am to ask what would be view of Japanese Government. There is of course no suggestion of intervening at all in the negotiations but my Government would be glad to know whether Japanese Government would co-operate in carrying out suggestion made, and instruct Japanese Ambassador to concert with his colleagues.

外
務
省



161528 0321

REEL No. A-0871

0226

アジア歴史資料センター

(三) 有田大臣ノ英大使ニ對スル回答

右ニ對シ有田大臣ハ廿四日他用ヲ以テ來訪セル英國大使ニ對シ口頭ヲ以テ左記趣旨ヲ述ヘタリ

帝國政府トシテハ蔣介石ノ生還ヲ希望シ居ル次第ナルカ情報ニ依レハ南京政府部内ニ於テモ學良問題ニ付テハ意見一致シ居ラス孔祥熙一派ノ蔣院長近親者ニハ蔣救出ニ熱心ナル餘リ學良トノ妥協ヲモ辭セサルカ如キ氣配アルヤモ知レサルカ他ノ一派ハ正面ヨリ學良討伐ヲ主張シ居ル趣ナリ又此ノ問題ニ付テハ日本トシテ機微ナル關係ニアルコトハ學良カ害共抗日ヲ南京政府ニ強要シ居ルコトニシテ此ノ點ニ關スル我カ國民的感情モ考慮セサルヘカラス何レニスルモ本件ハ結局南京ト學良ノ交渉ノ經過如何ニ係ルヘシ

右ニ對シ英國大使ハ英國側トシテモ支那ノ内政ニ干涉セントスル意圖ハナク唯學良カ自己ノ飛行機ニテ天津邊ニテモ逃ケ來レ

外務省

11. 11

161528 0322

ル時ハソレヨリ先キノ安全ヲ保護セントスルモノナル旨ヲ述ヘタリ

(四) 英、米、佛、伊大使ノ支那側ニ對スル申入

右提議ハ在支英國大使ヨリ夫々米、佛、伊大使ニ申入レラレタル處本國政府ヨリ大體贊同ノ訓令ニ接シタル趣ニテ廿三日先ツ伊國大使ヨリ孔祥熙ニ對シ單獨申入レヲナシ翌二十四日英、佛、米ノ三大使モ本國政府ヨリ接受セル訓令ヲ持合セ商議ノ結果中央側ニ對シ三國別々ニ「中央政府ノ要請アルニ於テハ今次事件ノ結果トシテ學良カ開港場ニ達シタル場合之ニ「ノー・コン・ドゥー・イ」ヲ與フルノ用意アル」旨申入ル事トナリ同日午後四時佛、英、米ノ順序ニ孔ヲ往訪シ同趣旨ノ申入レヲナシタリ孔ハ之ニ對シ單ニ感謝ニ堪ヘサル旨ヲ述ヘタル趣ナリ

(五) 須磨總領事、高宗武會談

廿五日高宗武ハ須磨ニ對シ

外務省

11. 11

S 161528 0323

「英、米、佛、伊大使カ孔ニ申入レタル趣旨ハ各國カ今次事變ニ際シ國民政府ニ好意ヲ示シタル迄ニテ義ニ川越大使ノ張群ニ對シテナシタル見舞申入レト大差ナキ位ノ極メテ輕キ意味ニトリ居リ自然政府ヨリ各國ニ對シ要望ヲ申出ツル事ニ付テハ全然考慮シ居ラス右ハ外交部内ノミナラス中央政治會議關係者モ同様ノ考ナルニ付日本側ハ暫ク形勢ヲ見テ慎重ナル態度ヲトラレ度シ」ト述ヘタリ

(六)英國側ノ右提議理由

右英國ノ提議ハ蔣介石ノ死亡ハ支那ノ混亂ヲ來シ從テ英國ノ對支關係モ一大變化ヲ免レサルヘキヲ以テ何トカ蔣ヲ救ヒ出スニ都合ヨキ形勢ヲ作り形勢何レニセヨ支那ニ對シ英國ノ行爲ヲ賣付ケントスル趣旨ニ出テタリト観ラル

九 蔣介石ノ歸還

(一) 蔣介石ノ歸還、妥協條件

外務省

11. 11

S

161528 0324

宋子文ノ活動ニヨリ蔣張間ノ妥協ナリタルモノノ如ク廿五日午後七時蔣介石ハ宋子文、宋美齡及「ドナルド」ノ三名ト共ニ飛行機ヲ以テ洛陽ニ護送セラレ翌廿六日正午南京ニ歸還セリ
妥協條件ハ不明ナルモ學良ノ生命ノ保障條項ノ外(1)抗日政策ノ強化(2)中央政府ノ改組(3)内戰停止(4)東北軍ノ待遇改善等ナリト傳ヘラル

(二) 學良ノ蔣釋放理由

蔣介石ノ歸還ニ先立チ廿四日早朝學良ハ吳鐵城宛左ノ通り電報セル趣ナリ

「學良ハ蔣介石ノ是迄ノ統一努力ニ對シテハ御同様敬意ヲ表スルモ今日ノ儘進ムニ於テハ蔣ノ政治的生命モナクナル次第ニ付此ノ際抗日ニ關スル蔣ノ反省ヲ求ムル爲聖禁シ居ルモノナル處若シ南京政府ニ於テ抗日方針ヲ確立實行スルニ於テハ直ニ蔣ヲ南京ニ安全ニ護送スヘク其ノ上ハ自分ハ極刑ニ處セラ

外務省

11. 11

S

161528 0325

ルルモ怨ム處ナシ而シテ右以外ニハ何等ノ條件ナシ（聯蘇密
共ヲ指スモノノ如シ）
學良ノ叛亂ハ其ノ動機ノ如何ハ暫ク措キ其ノ狙ヒ所ハ全國ニ滿
蒙スル抗日思想ニシテ學良一度立タハ全國ノ急進分子及不平軍
閥ハ其ノ傘下ニ參スヘシトナシタルニアリタルカ如キモ地方軍
閥モ學良ニ策應セス輿論ハ一齊ニ學良ヲ攻撃シ形勢非ナルヲ見
テ抗日一點張りユ看板ヲ塗り換エ右電報ヲ發シ妥協的態度ヲ示
シ蔣介石ヲ生還セシメ專ヲ恭順ヲ表シ自ら死ヲ免レントスル方
針ニ出テタルモノト觀ラル

(三) 中央側ノ妥協理由

中央側ニ於テハ孔祥熙、宋美齡等武力討伐ニ反對シタル結果戰
天仇、居正等ノ討伐派モ消極的トナリ又孫科、馮玉祥ハ元來容
共論者ナレハ形勢漸次討伐ニ反對ニ赴キタル際ニモアリ又前額ノ
如ク二十三日韓復榘及宋哲元ハ連名ヲ以テ學良ノ武力討伐ハ支

外務省

S

161528 0326

那ノ内戦ナルニ付絕對反對ナリ西安事件ハ政治的妥協工作ニ依
リ解決スヘキ旨ノ通電ヲ發シタル次第モアリ中央當初ノ主張タ
ル即戰解決ハ漸次困難トナリタルニ依ルモノノ如シ

(四) 蔣介石ノ張及楊ニ對スル訓話

廿五日蔣ハ西安出發前張及楊ニ訓話ヲ與ヘタルカ其ノ要領左ノ
通りナリ

今回ノ西安事件ハ實ニ中華民國存亡ニ懸ル大事件ナリ然ルニ
今日汝等既ニ國家ノ大局ニ關メ命令ノ發出乃至何等特殊ノ要
求ヲ強行セス余ヲ驚京セシメント決心セルハ過ヲ知テ改ムル
ハ君子ナリトノ中華民族ノ人格ト文化ノ高尚ヲ表現セルモノ
ニシテ余ノ部下タルニ恥シス汝等ハ反動派ノ煽動ニ依リ余ノ
汝等ニ對スル待遇不公平又革命ニ對シ不誠實ナルカ如ク誤解
シタルカ如キ處余ノ一年以來ノ日記約六萬餘言、二箇月以來
ノ公私電文手配四五萬言又政策ニ關スルモノ十餘萬言ニ及フ

外務省

S

161528 0327

處其ノ中一言一句國家ヲ棄テ私ノ爲ニ計リタルモノアルヤ仔細ニ檢閲セヨ一毫一糸人ヲ欺タ所ナカルヘシ余ハ常ニ部下ニ對シ(一)余カ國家ヲ棄テ私利ヲ計リタル場合ハ國家ノ罪人トシテ我ヲ殺セ(二)余ノ言動ニシテ苟モ國命ニ不忠實ナルモノアラハ我ヲ敵トシテ直ニ殺害セヨトノ二點ヲ訓示シ居レリ前記各書面中若シ右ノ如キモノアラハ余ハ猶汝等ノ手中ニ在リ直ニ我ヲ銃殺セヨ

今同事變ノ責任ハ當然何等中央ニ於テ負フヘキナレバ其ノ原因ヲ究ムレハ余モ亦責任ナシト言フヲ得シ蓋シ余ノ行動餘リニ輕卒ナリシ爲反動派ニ乘スルノ機ヲ與ヘタルカ其ノ根本ナレハナリ余ハ常ニ部下ノ過失ハ上官ノ過失ナリ先ツ上官ヲ罰セサルヘカラスト主張シ居レリ汝等ノ過失ヲ看過シ得サルハ勿論ナルモ余ハ先ツ余自身中央ニ向ヒ引責罪ヲ請ヒ汝等ニ付テハ他人ノ煽動ニ依リタル點竝ニ汝等カ早キニ及テ過ヲ改

外務省

11.11

S

161528 0328

(四) 蔣介石ノ「ステートメント」發表

蔣介石ハ二十六日午後三時左ノ「ステートメント」ヲ發表セリ「飛行機動搖ノ爲些カ疲勞ヲ感シタリ余ノ西線事件ニ對スル見

外務省

11.11

S

161528 0329

解ハ余カ西安ニ於テ張及楊ニ與ヘタル調話中ニ明カナリ一切
ハ總テ中央ノ命ニ依リ決定セントス余ハ統帥ノ身ニアリ乍ラ
其ノ法ヲ得サリシ爲今四ノ如キ事變ノ發生ヲ見タルハ眞ニ遺
憾ニ堪ヘス殊ニ殉難ノ同志及官兵ニ對シテハ氣ノ毒ノ至リナ
リ幸ヒ中央機宜ノ措置ニ依リ全國軍政當局其ノ職責ヲ盡シ國
家ノ安全ヲ常態ナラシメタルハ深ク幸トスル所ナリ而シテ
事變中海内外同胞同志ノ熱烈ナル同情及友邦朝野並ニ世界一
致輿論ノ支援ハ殊ニ余ノ感謝措ク能ハサル所ナリ

(丙) 蔣介石ノ海内外同胞ニ對スル通電

蔣介石ハ廿六日海内外同胞ニ對シ

一自分ノ教導至ラサリシ爲今四ノ如キ事件ノ發生ヲ見タルハ申
譯ナシ自分ハ中央ニ對シ引責スヘシ今四ノ事變ニ依リ國民ハ
一致國家ヲ愛護スルノ偉大ナル力ヲ發現セリ此ノ威力コソ今
四ノ事變ヲ無事經過セシメタル主因及將來我民族復興ノ保障

外務省

11. 11

S

161528 0330

ナリ是余ノ心疾シキ中ニモ敢テ國家ノ爲ニ慶祝スル所ナリ共
ニ努力ヲ望ム云々

トノ趣旨ノ通電ヲ發セリ

(七) 一般輿論

蔣介石ノ歸還ハ各地ニ於テ熱狂的歡迎ヲ以テ迎ヘラレ各地方ハ
近來稀ニ見ル祝賀氣分ヲ呈セリ各紙ハ大體蔣ノ歸還ハ其ノ人
格ノ然ラシムル所ニシテ又今次ノ事變ニヨリ支那ノ政治的安定
及統一ヲ裏書キセリト述ヘ又蔣介石監禁中ニ於ケル官民ノ態度
及歸京ニ對スル熱狂振リヲ見テモ全國カヨク統一セラレタルヲ
證明シ得ヘク今後益々一致團結セサルヘカラストノ趣旨ヲ論シ
居レリ

セ南京政府ノ善後措置

(一) 蔣介石ノ進退

イ、廿八日孔祥熙ハ各省市政府、綏靖主任宛ニ左ノ通電ヲ發シ

外務省

11. 11

S

161528 0331

タリ「西安事變發生ニ際シ中央ノ政務ハ一日モ停頓セシムルヲ得サルヲ以テ行政院ハ自分ニ於テ責任ヲ負フ旨決議ヲ見全國同胞一致ノ擁護ニ依リ幸ヒ難關ヲ切抜ケタルカ今ヤ幸ニ蔣院長カ歸京セルニ付自分ハ即日院長代理ヲ辭シ蔣院長ニ引繼キ職權ノ執行ヲ請フト共ニ此レヲ中央政府ニ報告セリ」

ロ、二十九日中央政治委員會ハ「行政院長及軍事委員長ハ蔣介石ヲ復職セシム」ト決議セシカ蔣ハ之ニ對シ同日辭職方ヲ申出テタルカ政府ハ懇切ニ挽留スル事ニ決定セリ

ハ、蔣介石ハ卅一日再度辭職ヲ申出テタルモ政府ハ重ネテ慰留シ差向ケ一ヶ月ノ休暇ヲ與フルコトヲ決議セリ各地將領省市商界工學等ヨリハ陸續トシテ蔣慰留電ヲ寄セ來リタリ

ニ、蔣ハ一月二日奉化ニ赴キ爾來同地ニ於テ休養セリ

(二)張學良ノ歸順

イ、學良ハ廿六日午後二時宋子文ト同乘東京シ宋邸ニ入りタル

外務省

S

161528 0332

カ往訪ノ新聞記者ニ對シ「余ノ來京ハ唯罪ヲ待チ一切ヲ中央及蔣委員長ノ命ニ聞カン爲ナリ」ト語レル趣ナリ

ロ、廿六日學良ハ蔣ニ對シ次ノ趣旨ノ書翰ヲ送レル由ナリ

「余ハ性粗野ニシテ今回ノ規律違反、不敬事件ノ大罪ヲ犯セリ閣下ニ從テ來京セルハ受クヘキ罪ヲ受ケンカ爲ナリ願クハ私情ニ捉ヘラルル所ナク充分ニ處罰セラレン事ヲ希フ云々」

ハ、張學良ノ處分ニ關シテハ二十九日ノ中央政治委員會ニ於テ「學良ハ軍事委員會ヲシテ法ニ依リ處罰セシム」旨ノ決議アリタル處（同委員會ハ同時ニ討逆司令部及同司令ノ撤去ヲ決議セリ）南京ニ於ケル三十一日ノ高等軍法會議（審判長李烈鈞、審判員朱培德、鹿鍾麟）ニ於テ同人ニ對シ徒刑十年並ニ五年間公權褫奪ノ判決ヲ下サレタルカ右ニ關シ蔣介石ヨリ國民政府ニ對シ特赦ノ請願ヲ提出セル経緯モアリ同政府ハ本年一月四日附ヲ以テ「學良ノ十年有期徒刑ノ本刑ヲ特赦ス但シ依然軍事委員會ニ交付シ嚴ニ管束ヲ加フ」トノ明令ヲ發セリ

外務省

S

161528 0333

楊虎城、于學忠モ中央ニ對シ處分ヲ請ヒタルカ中央ハ寬ニ從
ヒ職ヲ撤シタル儘西安綏靖主任等ノ職ニ留任セシメタルコト
後顯ノ通ナリ
ニ、尙學良ハ來京後宋子文邸ニ於テ隨價中ナリシ處英、米、佛
伊四國大使ヨリ學良ニ對シ非公式ニ學良外遊ノ申出アリタル
趣ナルカ行政院エテハ之ヲ正式ノ問題トナシ居ラサル模様ナ
リ
(三)一月五日附軍政部ニ於テハ「整理陝甘軍事辦法」ヲ發表シ
イ、願祝同ヲ西安行營主任ニ任シ軍事委員會委員長ノ命ヲ受ケ
陝、甘、青、寧ノ軍事ヲ總理セシム
ロ、王樹常ヲ甘肅綏靖主任ニ任ス
ハ、楊虎城ヲ西安綏靖主任ニ、馮欽哉ヲ第二十七路軍總指揮ニ
任ス楊虎城于學忠ハ自ラ處分ヲ請ヒタルカ寬ニ從ヒ職ヲ撤シ
タル儘留任セシメタリ

外務省

S

161528

0334

ニ、邵力子ノ辭職ヲ許シ孫蔚如ヲ陝西主席ニ任ス蔣介石ハ再度
辭職ヲ申出テタルカ政府ハ之ヲ慰留シ差向ケ一箇月ノ休暇ヲ
與フルコトトス

十一、南京政府今後ノ動向

(一)二種ノ觀測

宋子文、張學良間ノ妥協條件未詳ナル爲局面推移豫斷ヲ許ササ
ル處右ニ開シ大別左ノ二種ノ觀測行ハレ居レリ
イ、學良ノ人物ヨリ見テ政府ノ改造、政策ノ變更等ヲ主張シテ
其ノ條件ノ下ニ妥協解決シタルモノニ非ラサルヘク又蔣ノ歸
還ハ學良カ宋子文ノ説得ニ服シ楊虎城ヲ始メ舊東北軍ノ過激
分子ヲ出シ拔キ蔣ヲ釋放セシメタルニ依ルモノナリト傳ヘラ
ル點ヨリ見ルモ楊虎城等ト蔣介石乃至中央トノ間ニ完全ナ
ル妥協成立セルモノニ非サルヘキヲ以テ今次ノ事變ハ國民政
府ニ對シ何等ノ影響ヲモ與ヘサルノミナラス寧口蔣ノ威信ハ

外務省

S

161528

0335

益々加ハリ一方政府ハ此ノ機會ニ東北軍ヲ處分スルコトヲ得
テ中央ノ統一ハ却●テ促進セラルコトナルヘシ(宋哲元、
葉楚傖、陳訓念(上海新聞檢查處員)、胡霖等ノ我カ出先官
憲ニ對スル内話)

口、蔣介石ノ歸還ハ専ラ宋子文及張學良間ノ妥協ニ依ルモノナ
ル處右ハ蔣介石ノ監禁長引クニ於テハ宋哲元、韓復榘等カ南
京政府ニ反對シ離反スル●危險漸次濃厚トナリタルヲ以テ學
良ノ要求條件ノ大部分ヲ容レ急速妥協セルモノナリ其ノ結果
中央政府ノ改組ハ必至ナルヘク(形式上二月十五日ノ中央全
體會議ニ附屬シ決議セラルヘシ)從テ又南京政府ノ對日政策
モ今後相當硬化スヘシ(王芳亭、「アーベント」、曾養甫等
ノ我出先官憲ニ對スル内話)

(二) 中央政府ノ説明

右ニ關シ中央政府側ハ我方ニ對シ「學良ハ全ク悔悟シテ蔣ヲ歸

外務省

11.11

161528 0336

京セシメタルモノニシテ學良ノ所謂政治的要求ノ如キハ政府ニ
於テ最初ヨリ之ヲ取合ハス假ニ蔣監禁中ニ何等カノ話合ヒアリ
タリトスルモ斯ル正式ノ手續ヲ踏マサルモノハ政府ノ政策ニ取
入ル能ハス從テ國民政府ノ改進黨々ノ如キハ全ク論旨ナリ國
民政府ノ對外方針、對內政策及政府ノ陣容ニハ何等變更ナシ
トノ趣旨ヲ説明シ居レリ(廿八日ノ川越、張會談並ニ續文談、
葉楚傖等ノ談話)

(三) 結論

今次西安事件ノ支那内政及南京政府ノ對日動向ニ及ボスヘキ影
響ニ付テハ輕々ニ豫斷ヲ許ササルモ事件●事變カ飽迄支那一
流ノ軍閥間ノ抗爭ナル限り之カ妥結ニ當リテモ金錢、地盤問題
等カ決定的要素タリシコトハ略々疑ナカルヘク一方學良ノ正式
要求條項中ニ於テハ結局抗日ノ點ニ於テ合意成立セルモノト觀
テ大過ナカルヘシ

外務省

11.11

161528 0337